

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

② 施設・事業所情報

| | | |
|--------------------------------|--|---|
| 名称：西寺尾保育園 | 種別：認可保育所 | |
| 代表者氏名：古橋美枝子 | 定員（利用人数）：145名（132名） | |
| 所在地：〒221-0001 横浜市神奈川区西寺尾3-22-1 | | |
| TEL：045-401-0953 | ホームページ： https://www.shoutokukai.jp/facilities/nishiterao | |
| 【施設・事業所の概要】 | | |
| 開設年月日 1974年4月1日 | | |
| 経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 聖徳会 | | |
| 職員数 | 常勤職員：38名 非常勤職員：4名 | |
| 専門職員 | （専門職の名称） 保育士 27名 看護師 1名 栄養士 3名 調理員 1名 | |
| 施設・設備の概要 | （居室数） | （設備等） |
| | 乳児室（0～2歳児室）3室 幼児室（3～5歳児室）3室 沐浴室 1室 調理室 1室 トイレ 5室 事務室 1室 職員休憩室（更衣室）1室 地域子育て支援室 1室 | 建物の構造：鉄筋作り2階建て 建物延床面積：744.72㎡ 園庭：393㎡ |

③ 理念・基本方針

【保育理念】「自分らしく生きる力」

未来を創る子どもたちへ贈りたい大切なもの、それは「自分らしく、幸せに生きる力」です。いつの時代にあっても、何を大切に思うか、何を表現し、何を伝えていく人になるのか、子どもたちが選び決めていく未来は、心に培った強さ、・優しさ・美しさが基盤となります。

【基本方針】

1. 「子どもにとって明日もまた来たいと思う保育園」
2. 「保護者にとって安心して預けられる保育園」

【保育目標】

1. 自主性を養う
2. 創造性を養う
3. 社会性を養う
4. 柔軟性を養う

④ 施設・事業所の特徴的な取組

【立地および施設の概要】

西寺尾保育園は、JR大口駅より徒歩約15分の高台の住宅街にあります。天気の良い日には富士山が見え、園児は日々変化するその姿を絵に描いたりしています。中学校および高齢者施設に隣接しています。昭和49年4月に開園し、築48年となる園舎（鉄筋造り2階建て）ながら、3回の改築及び毎年の計画的な整備により、安全で快適な保育環境が保持されています。地域子育て支援室、パーテーションを開けて拡げられる保育室（1階）、固定遊具のある300㎡の園庭を備えています。園舎裏には小規模ながら畑があり、園の周辺には13か所の公園、ザリガニ釣りができるせせらぎなど、自然豊かな環境があります。

【園の特徴】

戦前から保育事業に取り組んできた運営法人が、横浜市内では5番目に開設した保育園です。法人共通の理念・保育方針の下で「自分らしく生きる力」を育む保育を実践しています。法人の中でも、ICT化に率先して取り組み、保育管理システム、保育連絡用アプリを導入しています。システムの活用により、保育に関する記録や連絡のほか、各種会議録や研修報告書等が迅速に共有できるようになり、職員の業務改善にもつながり、働きやすい職場が実現されています。アクティブラーニングの手法を取り入れ、0歳児から5歳児まで、132名（定員145名）の園児が、主体的に自分の興味・関心のある遊びや活動に取り組み、それぞれのペースを大切にしながら生活しています。

⑤ 第三者評価の受審状況

| | |
|---------------|---|
| 評価実施期間 | 2022年4月1日（契約日） ～ 2023年2月27日（評価結果確定日） |
| 受審回数（前回の受審時期） | 2回（2017年度） *回数は今回を含む |

⑥ 総評

◇特長や今後期待される点

1. 子どもが自分らしさを大切にしていありのままの気持ちを表現できる保育

子どもの関心・意欲を最大限に伸ばすことができるよう、子どもが主体的に活動できる環境を整備しています。基本的に遊びの場所を限定せず、室内、戸外遊び等遊びたい場所を自分で選択できるよう活動の場所を設定しており、子どもたちはそれぞれ自分のやりたいことを選んで遊んでいます。職員は子どもの様子を見ながら興味・関心や子ども同士の関係が深まり、遊びが発展するように、凶鑑や小道具を用意したり、声かけをするなどして援助しています。4、5歳児では「サークルタイム」の時間を設け、クラスの中で、子どもが主体的に発言する機会を作っています。違う意見があっても間違っていないこと、お互いに認め合うことが大事なことを、職員は子どもたちに伝えています。運動会や発表会等の行事でも、子どもたち自身が見てもらいたい姿を楽しく発表できることを重んじ、普段の生活の中で取り組んできたことを発表しています。生活発表会では、4歳児はザリガニの楽しかった思い出を再現し、5歳児は、キャンピングカーの製作から発展したキャンプ場のジオラマ作品を見てもらいました。

2. 保護者にわかりやすく保育の意図や保育内容を伝える工夫

入園時に保護者に渡す、重要事項説明書「保育園のしおり」には、「ほけん」「ほいく」「防災」の冊子もセットになっていて、園の生活に必要な事項がすぐに見られ、卒園まで保存できるようになっています。入園の時だけでなく、進級児の保護者にも毎年3月に、重要事項説明会を実施しています。ホームページでは、重要事項説明書を動画により説明し、園が大切にしていることや、保育の内容をわかりやすく伝えていきます。年3回の懇談会、個人面談月間、年1回の保育参加の機会を設けています。保育参加は、1日1クラス保護者1名の受け入れ態勢でほぼ全員が参加しています。日常の保育の様子や職員との会話の中から、保育の意図や子どもの成長が実感できる機会となっています。

令和3年度より、保育連絡用アプリを導入し、0～2歳児は、家庭や園での毎日の様子とコメントを、アプリを使って情報交換をしています。3～5歳児はドキュメンテーションとして、写真を取り入れた日々のクラスの様子を伝えていきます。運動会や生活発表会で、子どもの成長を共有し、生活発表会では、子どもたちの発表を見てもらうだけでなく、子どもたちが楽しかったことを思い出して再現し、発表に至る過程を、写真や映像で伝えていきます。

3. 職員の意欲を高める役割分担と明確な組織体制

園長、主任、副主任、リーダー、一般職員からなる組織体制が整備されています。これにより、階層的・段階的な双方向の連絡・伝達が的確になされています。また、園長・主任会議、リーダー会議、クラス会議、乳児会議、幼児会議、職員会議（月例ミーティング）等、各種会議の目的が明確にされており、園全体として、効率的な話し合いが行われています。

さらに、一般職員も含めて役割分担をして、効率的に諸業務を進めています。園長は、各職員の得意分野を考慮しながら、保育環境、美化・環境整備、ICT、ホームページ更新等、様々な業務を割り振って担当者と定め、施設運営の視点を持ちながら多角的に保育が捉えられる機会を作っています。職員は担当分野を中心に、自らもアイデアを出しながら取組を実行することで、全職員が園の事業計画を理解し、積極的に園の運営に関わっています。

4. 地域との関わり方についての基本的な考え方の文書化の検討

散歩の際には積極的に挨拶をしたり、4、5歳児が食育の一環として地域のお店に野菜の苗を買いに行くなど子どもと地域との交流に努めていますが、地域との関わり方についての基本的な考え方を明文化したものはありません。子どもと地域との交流を広げていくにあたって、拠り所となる基本的な考え方を文書化することが期待されます。

5. 地域のニーズに沿った、地域コミュニティの活性化や防災活動等への貢献の検討

納涼祭や運動会、人形劇等の園内イベントに地域住民を招待し、交流の機会を積極的に作っています。今後はさらに、地域住民のコミュニティの場づくり、中学生も含む子どもの居場所づくり等の構想や、公園に花を植える活動等に参加していきたい意向があります。また、3.11東日本大震災の際に、子育て世帯が当園に避難してきた経験も踏まえ、地元自治会の防災訓練への参加等、地域の防災対策について連携を図っていくことを計画していますが、コロナ禍で地域活動が休止している事情もあり、具体化に至っていません。

多様な機関や地域住民等と連携して、地域コミュニティの活性化や防災活動等への貢献について検討を具体化し、実現していくことが期待されます。

⑥ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

コロナ禍の保育、新しい生活様式を取り入れた保育となり、これまで出来ていたことが出来なくなる等、子どもを取り巻く環境が変わり職員の負担も増えました。このような時に第三者評価を受審し保護者からのご意見に若干不安はありました。しかし、どのような時でも保護者の考えや思いを知ることは欠かせず、保育内容は勿論、保育施設としての役割についても改めて考えさせて頂く良い機会になりました。

受審に際して調査員の方が職員全体に丁寧に説明をして下さり、調査当日も柔らかい雰囲気でも前向きな助言をいただくなど緊張せずに保育を語り合える感覚で受審出来ましたのは非常にありがたく思いました。

評価項目を職員一人一人が読み込み、クラス毎に文章化し、リーダー、主任がまとめていくことで保育を振り返ることが出来ました。園長の項目では園として不足している点等気づきに繋がり改善点が見えてきました。今回の評価を受け、地域との交流・貢献の改善ではどのように関係作りを構築していくのか等、明文化し着手していきたいと思えます。また、保育所の変更や卒園にあたり保育の相談方法等文書作成も取組んで参ります。

保護者の皆様にはお忙しい中アンケートにご協力いただき、ご意見も沢山いただきました。未来を担う子どもたちが将来自分らしく幸せでいられるよう、保護者の皆様と共に子どもをまんなかに据え、今を大切にしながら協力関係の強化に努めて参ります。

この度は丁寧なご教示と保護者の皆様のご意見に感謝いたします。ありがとうございました。

⑧ 第三者評価結果

別紙2のとおり